# 岡山大学広報

# いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE





# 那須保友新学長に聞く

# Message from the New President NASU Yasutomo

この胸にいつも「岡大愛」。不易流行を礎に、誇りと希望の学都へ。

生と接したい |。 学長になって 改めてそんな想いが込み上げ ています。学生や教職員はも ちろん、岡山大学に関わる過 去・現在・未来、すべてのス テークホルダーの物心両面の 幸せ(well-being)を追い求め ること。そのためにも私は、愚 直に言い続ける。考え続ける。 行動し続ける。それが岡山大学 を発展させるための源泉だと 思っています。岡大LOVE、学 生LOVE、教職員LOVE、岡山 LOVE。これからの4年間「岡 大愛|を胸に「誇りと希望の学 都」を目指します。

縦割りになりがちな大学組織を変え たいと思います。予測困難な現代に おいて、1つの部署だけが決まった方 法で行う「ウォーターフォール型」は対 応できなくなっている。複数の部署が 協力して、柔軟に進める「アジャイル 型」の組織作りが重要です。昨年度ま で研究担当理事として改革を進めて きた結果、効率の向上、帰属意識の 醸成、達成感の獲得、対話の推進等 の効果が得られつつあり、国や地域 からも高い評価を得ています。今後 はこれを全学に拡充し、学生や教職 員が持てる資質・能力を十分に発揮 し、活躍できる組織風土をともに作っ ていきたいと思います。



# 那須 保友

岡山大学医学部卒業。同大学院医学研究科修了。 1996年から米国ベイラー医科大学に研究員として留 学。帰国したのち現在に至るまで岡山大学に勤務。 2019年より研究担当理事として、若手研究者の支援 や研究環境の整備を推進してきた。専門は医学(特に 尿路性器悪性腫瘍、泌尿器内視鏡外科学、医学英語

▼広島県尾道市と愛媛県 今治市を結ぶ「瀬戸内しま なみ海道 |をサイクリング。 県外まで出かけることも珍



15年を超える大の自転車好きです。 休日には児島湖の湖畔をサイクリン グ。お気に入りの場所でコーヒーを 入れて、考え事をしたり読書をしたり

> する時間がリラックスで きますね。そういう時に ふとアイデアが浮かんで きたりします。最近は自 宅でも自転車に乗れる よう、バーチャルサイク リングシステムを導入す ることを計画しています。

けることを願っています。そして、その ために必要なのが「不易流行の経営 改革 |。「不易流行 | は、俳聖・松尾芭 蕉が「奥の細道 | の旅をする中で体得 した俳諧の理念だといわれています。 時代が変わろうとも不変なもの・変え てはいけないもの(不易)と、時代の 変化、社会の要求や期待に応え、変 化させていかねばならぬもの(流行)。 岡山大学で示すなら不易とは本学に 関わる過去・現在・未来の人々(マル チステークホルダー)の多様な幸せ (well-being)の実現。流行とは社会 情勢を見極め、国立大学法人として 政策や地域の思いを先取りし、先導 する改革・人材育成・教育研究だと 認識しています。

若かりし頃から内視鏡治療や ロボット手術の導入、新しい 手術法の研究・開発に率先し て取り組んできました。前立腺 がんの治療においては、日本 初の遺伝子治療に関わること もできました。その当時は「岡 山大学病院を前立腺がん治療 のメッカにする!」 そんな熱い 想いを胸に医療人としての不 易を大切にしつつ、新しい治 療法の開発に挑んでいました。

人は長い人生において、学校や会社、 地域など様々な組織に属します。私 自身、中高一貫校でしたから母校へ の愛着はひとしおです。同じように青 春時代を岡山大学で学び、岡山大学 病院に勤め、今こうして岡山大学に身 を置いていることに誇りを持っていま す。「岡大に行って良かった」。卒業後 の人生においてもそう思えることが大 切です。そうした母校への想い、帰属 意識の醸成は本学の発展に欠かせな いものであり、そのためにも教職員 の「学生愛」が放たれる場づくりにも 努めたいと思っています。

「学都構想」は千葉喬三、森田潔、槇 野博史学長が提唱、止まることなく推 <u>進されてきました。私は、</u>それらがこ

れからもゆるぎなく持続的に発展し続

「ダ・ビンチ」の前で。「患者 さんのために『誠を尽く



ルとなる「共育共創コモンズ:愛称 計・施工監理を世界的な建築家 る木質系材料C 本学特別招聘教授の隈研吾 「大学に新たな交流と共創の場 月、岡山の新たなシンボ クス)」が完成しました。 トラル・脱炭素社会に を活用。

に貢献する木造建築カーボンニュートラ

ル

·脱炭素

本一。言うなれば、岡山県こそ日本の隈先生は、「岡山県はCLTの生産が日

木造建築を牽引するリ

にふさ

た結果、 私の想 木の可能性を追及する時代。 界の最先端技術をカタチにすること ができま 木造建築技術の最先端、 いを語る。 の時代で 今日の完成に至り に岡山大学が共鳴 20世紀は鉄とコンク したが、これからは すなわち世 ま してくれ いした」と そんな

で

向

先生は「『共育共創コモンズ』で日本の

炭が開催された。 売教授(以下、隈先

隈先生)による特別講

大空間で

隈研吾特別招

完成にあたり、

隈

いです。

脱炭素社会に貢献する、環境に優し 木質系材料。 方向が直交するように積層接着した Timber) はひき板を並べた後、繊維 材料として、 れたC Ś 今回「共育共創コモンズ」に活用 DGsの観点からC ⊣⊢ (Cross Laminated カーボンニュー 機運が高まってい 国内森林資源の蓄積 トラル・ - を積極

の木造建築技術を学んでほしい原寸大の教材「OUX」で最先端

С てきた隈先生は、日本国内における 中高層の木造建築を目の当たりに 進国のヨ の木材により作られた。 今 ,回使われ 木と岡山県のつながりについて ・建築の可能性を長く模索して ロッパでC た C は、 木材産業先 全て国産 を使った

隈 研吾

1954年生まれ。東京大学大学院を修了し、 1990年、隈研吾建築都市設計事務所設 立。自然素材を生かした建築が特徴で、日 本建築学会賞、フィンランドの国際木の建 築賞などを受賞。東京オリンピック・パラ リンピックのメインスタジアムとなった新 国立競技場の設計にも携わった。2020年

かその主人公になってほしい」とエ皆さんが時代をリードしていく。ご対する責任がある。そしてこれから 話す隈先生。最後に聴衆の学生たちに けて「建築は楽し できる。これは画期的なことなんで 木造建築に関す と熱く語る。 る場。その象徴ができあがった」と この大講義室は18 特別講演を締め括っ でも、 実現不可能で、 いけれど、 そしてこれからは る最先端の教育が PROFILE 丈夫なC m × 21 鉄骨でも れはコンク 使う 6 m な 難 の より岡山大学特別招聘教授。



完成披露式典では、2階の大講義室で隈研吾特別招聘教授による特別講演が開催。岡山の新たなシンボルとなる木造建築「OUX」の設計趣旨、新建材CLT(Cross Laminated Timber)の 可能性など、世界各地に建てられた『隈作品』を紹介しながら建築や教育への熱い想いを語られました。



1階は「共創ラボ」。オープンな共同プロジェクトから機密性を高く保てる共同研究まで、フレ キシブルに対応できます。さらには海外からの招聘教授、滞在研究員が学生らとともに研究できるスペースとしても活用します。

[右]本学の卒業生でもあるナカシマ ホールディングス株式会社の中島博会 長から多大なる寄付をいただきました。 同社が世界トップシェアを誇る船舶用 スクリュープロペラが寄贈され、大講 義室の壁に設置されています。

[右下]ガラスの衝突防止には特徴的 なOUXの窓割をかたどった木材を使用。 [下]天然素材の竹を用いたルームプ







# 300人を収容できる 大講義室 2F 機密性の高い 共同研究スペース 2階へと続く 大階段 オープンな 1F 共同プロジェクトのための 打合せスペース

「OUX (オークス)」に込めた3つの想い

愛称提案者:学務部学務情報システム開発室 田邊 光伸さん

● 国山大学の「OU」と、共育・共創の交流

を表す「X」。 ②Optimal(最良・最適な)UX(ユーザー エクスペリエンス)を提供する場。

3「オーク(樫・楢)」や「大楠」を連想させ、 岡山のシンボルツリーたる大樹のイメ ジ。3つの想いを愛称に込めました。

named!

4 いちょう並木

し、国内外のでまざまなCOVID-19研究を業生。感染症に対する免疫について研究卒業生。感染症に対する免疫について研究体がのでがです。原発性に対する免疫について研究ががでいる。 では、国内外のでは、 単略歴/フィリピン唯一の医学士-医学博士学術研究院医歯薬学域大原直也教授

的に参加している。

リカ社会学会の会長を務めた。現在はネルリカ社会学会の会長を務めた。現在はネルテート大学で社会学の教鞭をとり、南アフ学の博士号を取得。ローズ大学・フリース学の博士号を取得。ローズ大学にて社会文明動態学研究所 中谷文美教授

プロジェクトし、国内外の

免疫学研究プロジェク れを解決するための

の患者数が

多く、

これまでのコロナ禍にお

リピンでは結核

支援してくれる機関

た。ちょうど研究を トに参加していまし

位を突き止めており、私が研究を進める 結核菌に変異を加えることで、 プログラムに参加しました。 和で素晴らしい都市で、 岡山は豊かな文化と歴史に彩られた平 抗結核薬のヒントになると考えました。 に不可欠な酵素が働くために必要な部 を探しており、 絶好の機会だと思い、本 とても良い環境 大原教授は 結核菌

予定です。訪日は初めてでしたが、最も

筆した論文は今後ジャ

ナルに投稿する 岡山で執

感じたのは人々の「ubuntu (ズールー語で

▶東京で行われたフォーラムでの発表

゛他者への思いやりぇ)」。若者から年配の

法について議論し、フォー 学生たちと危機への対処 た。滞在中は中谷教授や 表の機会を持つためでし り返り、論文の執筆や発 けるジェンダー研究を振

ラム等での発表も行いました。

STI for SDGs

御のために、今後も研究や教育を通して 原教授とは、結核などの病気の予防や制 で研究を進めることができました。大

コミュニティを確立していくための議論や

- クを生

方まで言葉が通じなくても助けてくれた

ことには感動しました。帰国後は新しい



Fresthel Monica Marqueses Climacosa 准教授

ラムに参 に短期プログ ラムを提供。 す゛長期プログ 号取得を目指 究者の声をお た若手女性研 2022年度 加し

**4、と開発途上国の若手研究者が博士** 共同研究・研修を行う〝短期プログラ 発途上国の若手女性研究者を受け入れ

長期的な協力関係を築いて

他の意欲的な女性研究者

とエジプトで共同研究を進めることで、 ても親切で勤勉でした。帰国後は日本 に研究に取り組みまし

彼らはと

▶研究室のメンバーと─緒に

ことができました。研究室の学生と一緒

にある顕微鏡を利用し た。滞在中には岡山大学 機会と考え参加しまし を開始するのには絶好の

今後の研究に繋がるデ

タを得る

(国連貿易開発会議)

連携の取り組み

# SDGs達成のための科学技術 イノベーション人材を育成!



Babalwa Magoqwana 上級講師





特別講演 地域の方や高校生ら約100人が参加しました。共育共創コモンズで開催され、本学学生・教職員、 技術革新の波を捉える 公平性のあるイノベ ション

り残され、 自動化による雇用の喪失により、 と想いを語った。 たい。そして、こうした課題を 途上国の間にある格差をなく うに役立つのか? 機会を最大化することができ 格差はさらに露呈されます。FT 長は「COVID-19パンデミックのような危機によって、こうした ざる者の格差がさらに拡大すると懸念されている。シリマン局 可能性を示しているが、同時に、 に、国際社会が取り組むべきアイデアを提案できるよう努め 識しています」と指摘。続けて「FTに関連する先進国と開発 しょう。そう ロジー(以下FT)の発展は、開発を持続可能にす 人工知能(A により誰をも排除しない持続可能な社会へと導くため その影響は開発途上国にとって深刻なものになるで した時、政府はどのようにしてリスクを最小化 私はFTの倫理を決めることが重要だと認 や遺伝子編集など、近年のフロンティアテ ために、また、これらのテクノ テクノロジー 貧しいコミュニティや国が の進歩、例えば、 そして国際協力はどのよ もっと議論してほしい を持つ者と持た 経済活動の

質問に、 かっています」と会場の若者性を訴え、「将来は皆さんに 識し関わっていくことへの重要 社会で何が起きているかを認 などに惑わされず、 中に氾濫するフェイクニュー がすべきことは何です ら寄せられた「私たち若 講演会の最 シリマン局長は、 自発的に 世界



本学学

研究成果報告会。シリマン局長は「岡山大学で得た知識

UNCTAD(国連貿易開発会議)

ノムセンターに博、博士号を取得。

助教として勤務する。発芽酵センターに博士研究員として士号を取得。ズウェイル科学技

。 ズウェイル科学技術都市ハイデルベルク大学で修士ンター 黄鵬研究准教授

達成のための科学技術イノベー

・ション

NA修復たんぱく質の

の研究の目的は、

月に、SDGs(持続可能な開発目標)

本学とUNCTADは、2020

定を締結しました。

協定に基づき、開

療の専門家で、共同研究 黄研究准教授はがん治 局在を調べることです。

大学としては世界初となる包括連携協 (STI for SDGs)の人材育成に向けて、

本学とUNCTADとの約3年にわたるこれまでの交流 に基づき、1月31日にシリマン局長の来学が実現。短 報告会をはじめ、特別講演、研究者・学生らとの交流

セッションなどが行われました。



Menattallah Gamal Elserafy 助教

# 美しきハーモニー。 それぞれの個性が奏でる

深点

理学部

映為

日本一を競う『ハモネプ』に挑みました」 中、暑い日も寒い日も屋外での練習を繰り返 感染症の影響で思うように練習もできない 年2月に開催されたユースアカペラコンテス して、様々な大会に挑戦しました。メンバー の深田さんはこう振り返る。「実は2022 初の決勝進出となる。その道のりをリー 園」と称される人気TV番組。「めどれみ」は 2022」の全国大会で決勝進出12組に選ば 4名・清心2名)」が「ハモネプリー の結果が4位で…悔しい思いをしました。 構成され、そのうちの一つ「めどれみ(岡大 岡山大学・ ペラサークル「ビリペル」は複数のバンド ベーションも徐々に上がって、アカペラ ハモネプリーグは「青春アカペラ甲子 ルダム清心女子大学合同 の

難しい。でもそれが『めどれみ』の強力量が問われる。「普通の曲より10倍 の切り替えが難しく、トライするバン も得意のアニソンメドレーで掴んだ。 み」とメンバーは口を揃える。決勝進出 ドは少ない。それだけに各メンバーの 見るからに個性的な4人。アカペ 「めどれみ」の魅力は何といっても ドボーカルが入れ替わる。転調 4人リード、4人コーラス ト分けで、どんどん

> 3 す 決 勝 11 進 モネ 出 プ Oラ 一で 挙 遠

> > じゃね』みたいな感じでカッケー!俺もいけるん

いていると『ベーシスト ハマっていました。曲を聴

かに深みのある魅力的な声だ

とコーラスを担当する藤原さん

を目指しました」と笑う。確

クルに入り、ベースパー

で、海外のアーティストに「もともとアカペラが好き

直な言葉で語ってくれた。

それぞれが抱く想いを素

ベースパートの深田さんは

広い世界で

光がん治療法の実現を

副作用のない

目指して。

となって体をむしばみ、最悪の場合、死に ことなく増え続け、 縦すると、異常細胞が取り除かれる から取り除かれるが、その機構が破 数生まれる。こうした細胞は通常、 方で働きが異常になった細胞も一定 働き、生命活動を維持しているが、一 ヒトの体内ではそれぞれの細胞が まう。今回、中尾さんが所属する共 ーシス)することで、体内 やがては「がん」

胞を人為的に死滅させる技術は、がん治療に せる新技術の開発に成功した。 ることで、光で狙った細胞を選択的に死滅さ (薬)須藤雄気教授、小島慧|助教)は、細胞を 同研究グループ (学術研究院医歯薬学域 その成果を中尾さんはこう説明する。「細 化する光感受性タンパク質を用い

開

発に成

功

死

滅させる

新

技

術

光

で

狙

0

た

細

胞

を

治療法を実現できると期待しています」 滅させることができれば、副作用のないがん した。そのため目的の細胞だけを選択して死 だ多くの薬は、がん細胞だけでなく周囲の正 副作用を引き起こしてしまう課題があり 常な細胞にも作用してしまい、投与によって としては、主に薬が用いられてきました。た 役立ちます。これまで細胞を死滅させる方法

と薬学部を志望した理由を尋ねると、「一番 現在、中尾さんは大学院の1 年生。もと

活

生たち

らかに語る。パ

いきました」と話す。同じくリー

で入部しました。アカペラはチー

ムプレー

クルに入らず、自分で勉強してい して難しい。そう悩んで1

年生の時にはサ

岡山大学の

与できるのは目の前の患者さんだけに限ら 持っていましたが、医師や看護師が治療に関 らです。もともと医療従事者の仕事に興味を 生の意識も高い。実際、授業の前にしっかり た理由を尋ねると、「医療に強い大学とい みました」と話す。続けて岡山大学を選択し 本をはじめ世界の人と関わることができる。 はやはり『創薬』に関わりたいという想いか 論文を読み込み、貪欲に学ぶ人が多いです イメージがありました。附属病院もあり、学 れてしまいます。でも『創薬』の世界なら、日 ね」と大学の印象を語る。 ルドの広さに惹かれて薬学部に進

ループに入ったのは大学3年生の時。研究 テーマに興味を持ったのはもちろんだが 理由だったそ 「須藤先生の熱量に惹かれた!」のが最大の 中尾さんが須藤教授、小島助教の研究グ うだ。当初は細胞の「酸性化」 をテーマに実験を繰り

出てこなかった。「須 も思っていた結果は 藤教授、小島助教と 話し合ううちに

それが研究の転機でしたね」と振り返る。

すから」と笑う。 とは思わない。逆にうまくいく方が珍し やモノなど。研究はその手段、手法です」と んでいる自負があります。だから失敗は怖い きっぱり。続けて「前例のないことに取り組 「新しいものを生み出す。それは概念や技術 中尾さんにとって研究とは?の質問に、

しは未来を見つめている。を抱いている。若き研究者として、 発し、医療技術の向上に貢献したいとの目標 せ、将来的には光を用いたがんの治療法を開 感じてきた」と話す中尾さん。今回開発した を通して、薬物治療がもたらす副作用を肌で 「光細胞死滅法」をさらにブラッシュアップさ 「これまで薬学部の授業や病院・薬局実習 、その眼差

中なか

総合研究科 1年

研究グループの集合写真。前列中央が須藤教授、 その左が小島助教。後列中央が中尾さん。 返していた中尾さん。 ところが半年続けて

0

どのファンでした。アカペラの印象は高度、そ 学生の頃から『ハモネプ』を欠かさず観るほ 自分が下手でへこむ時期もありましたが、時 れでもやらないと後悔すると思い、2年生 楽器の迫力が感じられる。ある意味、声はフ スの木村さんは「アカペラは伴奏がないのに 現する楽しさを知ってどんどんのめり込んで アカペラを聴いて、転調の面白さとか声で表 屈なイメージでした。でも見学の際に先輩の は「『アカペラ=合唱』と思っていて…正直退 キシブルな楽器。それが魅力ですね」と朗 ーカッションの澤田さんは「小 ドとコーラ これからも期待したい。 くの視聴者を魅了した。個性が奏でるハーモ勝の舞台ではクリスマスメドレーを披露。多 勝の舞台ではクリスマスメド ニーで、音楽の愉しさを伝える「めどれみ」に かったと思っています」と振り返る。 にはメンバーに助けてもらい、今は続けて良 イデアが浮かんできて…。まさに逆転の発想。 リ化でやったらどうなるんだろう?』というア 昨年のクリスマスイブにオンエアされた決 澤田健太郎 を 4年 藤 工学部 3年

※所属等は2023年3月時点のものです。

# **OKAYAMA INNOVATION CONTEST 2022** 「岡山イノベーションコンテスト」レポー

岡大発

革新的なビジネスのアイデアや実践例を競う「岡山イノベーションコンテスト\*」。岡山、備後の地から世界を変える起業家を誕生 させるべく始まった岡山イノベーションプロジェクトの一環で、今回が6回目の開催となります。2022年11月26日に開催された 最終審査会。総数102組の申し込みのうち登壇できるのは、2次審査までを勝ち残った16組のみ。わずか3分間のプレゼン時間 で、自らのビジネスプランをアピールします。岡山大学からは4人がファイナリストとして登壇! 当日の様子をレポートします!

※主催/中国銀行、山陽新聞社、公益財団法人サンマルク財団



コメント

を起こす。

精度の悪い方 るために多くの これまでは最終的に1つの薬を製品化す 動

物を犠牲にして、

状況を変え、個別化 医療の発展にも貢献し ヒト臓器チップでこの るを得ませんでした。 法で薬の効果を調べざ

# いわれる製薬試験市場に破壊的なイノベー く薬の開発も可能となる。

# さらに個人のiPS細胞を用い能を再現し、薬剤の効果を適 市場規模1.9兆円とも 適切に評価できる。 多くの実験動物が製薬のために、 器チップ」を開発。 活用した「ヒト に終止符を打 者としてこの問題 現実。薬剤の研究 犠牲になって れば個人ごとに効 ど異なる臓器の機 心臓、肝臓、肺 と、iPS細胞

を

な

※所属等は2023年3月時点のものです。

日本初の技術で

ビジネスプラン部門 一般の部

大賞

薬の開発方法に革命を

高橋

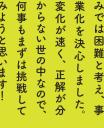
**賢** 研究准教授

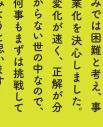
術研究院医歯薬学域

コメント

既

変化が速く、正解が 業化を決心し 、は挑戦・







存の枠 持続可能

地域病院での経験の中で直面

域全体の医療レベルの向上にも貢献。全国どこ

タを共有することで、

セス可能。蓄積さ 人材の不足する

レさんであること。

い服を買うことにコ

が一般のオ

という2世代の潜在的なニーズに応える。

プランで地元就職に革命を起こす。

「TsudoiVa」を提案。企業は採用コスト

生が本音で接する機会が持てるキャ

をかけず、自分の服で「ダサい」から脱却し

医療機器台帳、

も安全な医療を提供できることを目指す

海外や た課題を解決

報告

は岡大女性起業家パイ 実行中。 しての期待と捉 今回の受賞



う並木99号で公言

したリベンジを は専門学校

コメント

現に向かって進んでおり に、地方のアップデ ます。「TsudoiVa」を起点 のご協力も得ながら実 については、



賞をいただけたことは貴重な経験にな 地元企業様 事業

大きい舞台でピッ チをさせていただき

き、学生はキャリア選択の場となるWin-Winの



岡山から地元就職に革命を

ビジネスプラン部門 一般の部 入賞 地域と世界の医療課題を DXで解決!

もう着る服に迷わない

大学・専門学校生の部

大賞

MASC賞

隆浩特任助教 理する「臨床工学 に医療機器を管

技士」が配置さ

。臨床工 ある平

> ゆ は さん

> > 経済学部4年

田

康之亮

さ

自身の に、自分の服 悩みを - に自信が 宮本さん

るSNS 「こーで が提案してくれ を他のユーザ と」を提案。 アッション系

機器管理教育シス

山助教らは医療

「自分のコーディ

大生を求め で就職している。 ず、岡大生は県 るにもかか 地元 企業は わ て b 出

明会ではなく 岡大生としてこの 感じた脇田さんは ギャップに課題を 一度きりの合同説

続的に企業と -を削減で , カフェ

岡山では2017年から「岡山イノベーションスクール」が始動し、起業支援の体制が受け継がれてきました。 本学からも学生や教職員が参加しており、2022年には過去最多の10人が参加しました! 本学では、イノベーションマネジメントコアベンチャー支援フィールドが窓口となり、起業に関する支援を行っています。 詳しくは、岡山大学研究推進機構のHPをご覧ください! https://www.orsd.okayama-u.ac.jp/kenkyusha/daigakuhatsu-venture/



10 いちょう並木

# D& I ディズ

岡山大学ではダイバーシティ&インクルージョン(以下、D&I)をさらに推進するため、 11月の1カ月間を「D&Iデイズ」として設定。

# 今回は2022年11月に行われたD&Iデイズの様子をお伝えします!

# D&Iを知ろう!

# セクシュアルマイノリティ講演会

● 2022年11月8日開催



岡山で活動するLGBT当事者グループ 「プラウド岡山」の鈴木富美子氏、八田凜 子氏に「多様な性を知ろう~セクシュアリ ティと人権~」というテーマで講演いただ きました。参加した学生・教職員は、多様 な性についての体系的な説明、当事者の 声や事例紹介に真剣に耳を傾け、その後 の質疑応答も活発に行われました。性に ついて正しい知識を知り、また、より身近 会となりました。

# D&Iを体験しよう!

# ボッチャ大会

● 2022年11月18日開催



パラリンピックの正式種目でもある「ボッ チャ」。目標となる白いボールに赤・青の ボールをいかに近づけるかを競いあうシ ンプルなスポーツです。当日はグッド ジョブセンターの職員や外国人留学生を 含む約50人が白熱した試合を繰り広げ、 大変な盛り上がりを見せました。参加者 からは、「スポーツの経験や男女関係なく 楽しめて良かった!」「国境を越えて交流 できてよかった!」などの感想が寄せら れました。

# D&Iを考えよう!

# メッセージボード

● 2022年11月1日~30日



D&Iデイズの期間中、各イベント会場や 学生が多く集まる図書館、一般教育棟な どに設置。「あなたが思うD&I」をテーマ にメッセージを募集し、学生や教職員か ら約40件のメッセージが届きました。

# メッセージは下記URLで ご紹介しています。

okayama-u-diversity.jp /event/news/9512/



# センター職員の声

岡崎 湧太 さん OKAZAKI Yuta 勤務歴:8年目

野菜や果物は傷つきやすいので、出荷 の時には丁寧に扱うように気を付けて います。テキパキと作業をして、たくさん 袋詰めができた時は達成感があります ね!一番嬉しいのは購入したお客さま に「ありがとう」と声をかけていただい た時。顔なじみのお客さまもできました。 満足していただける岡大産農産物をお 届けできるよう、これからも頑張ります!

# センター利用者の声



齊藤邦行センター長 SAITO Kuniyuki 農学部附属 山陽圏フィールド科学センター(FSC)

グッドジョブセンターとの関係は約10年前に 直売所の販売業務を委託したところから始ま りました。それから依頼する業務は拡大し、販 売場所も他学部や学外のスーパーへと広が りました。FSCだけではとても無理だったと思 います。我々としても働きやすいよう機器や施 設を整え、できるかぎりサポートしてきました。 今後も協働関係を築き、よりよい農産物を地 域の皆様へお届けしていきたいと思います。

# 事務·軽作業班

農場班



若井 雪花 さん WAKAI Kiyoka 勤務歴:4年目(旧姓:昼田)

手や身体を動かす作業が好きなので、 封入業務や清掃は自分に向いているな と感じています。約4年間働く中で嬉し かったことは、一人でできる業務が増え たこと。数の多い業務は大変ですが、終 わった時の達成感はひとしおです!保護 者の方や学生さんに届いた時を意識し て、折り目がズレないように折ったり、向 きを揃えて封入したりと工夫しています。



市田亜希匡主 ICHIDA Akimasa 学務部学務企画課教育支援グループ

学務企画課では学部学生の保護者の方 へ送る成績表や新入生の皆さんへの案 内の封入をお願いしています。本学には 約1万人の学部学生がおり、成績確定から の短い期間に間違いのないように送る必 要がありますが、今までミスがあったこと は一度もなく、本当に感謝しています。また、 不明な点はきちんと確認してくれるので、 安心してお願いすることができています。

障がいという個性に配慮し、一人ひとりが持

る職場環境をご紹介します

設置され

学の

ドジョブ支援セン

めの様々

な取り組

4

**(** 

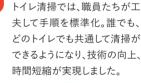
環境

美化班

0

本部

を設



広いキャンパス内の草木の整備や道路の 清掃、建物内の清掃等を担当。快適なキャ ンパス環境を整えます。





農場での野菜・果物の栽培補 助、出荷、学内販売を担当。 農学部の教育研究を支えると ともに、岡大産農産物の生産に 貢献します。

# 共通マニュアルの作成で、 業務を効率化!

トイレ清掃では、職員たちが工

# 業務

グッドジョブセンター には約70人の職員が所属 (2023年2月現在)。4つの班 のほか、各部局において勤務 する職員もおり、様々な 場面で岡山大学を 支えています。



人学を目指

成績表等の配布物の封入やカルテ整 理、実験補助等の事務作業を担当。多 くの構成員を抱える岡山大学を迅速か つ正確な業務で支えます。

鹿田キャンパスにおいて建物内や」 ホール周辺の清掃、事務作業等を担当。 津島キャンパスを飛び出し、 活躍の場を広げています。





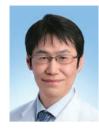
# 配置の改良で 安全な作業環境に!

各部局から届く膨大な古紙を処分 することも業務の一つ。職員の発 案で古紙置き場の配置を改良し、 安全に作業ができるようにしました。

12 いちょう並木

# PICK UP!





大塚 基之
OTSUKA Motoyuki
■ 所属
学術研究院
医歯薬学域
教授

研究分野 消化器内科学/ライフサイエンス

消化器内科学関連の臨床と研究と教育を担当し

ています。分子生物学と臨床を融合させた新し

い「分子消化器病学」を確立して、臨床を革新し

人類に貢献することが夢であり目標です。



山元 英崇 YAMAMOTO Hidetaka ■ 所属 学術研究院 医歯薬学域 教授



石浦 浩之
ISHIURA Hiroyuki
■ 所属
学術研究院
医歯薬学域
教授

研究分野 病理学/腫瘍学

がんの発生メカニズムを解明し、分子と形態の 視点を組み合わせたより正確な病理診断や、臨 床への応用を目指した研究を行っています。 研究分野 脳神経内科学/神経遺伝学 難治性神経筋疾患の遺伝子解析が専門です。 脳神経内科診療と研究の発展を目指します。



研究分野 確率論/解析学

動くモデルの解析を行っています。

河本 陽介 KAWAMOTO Yosuke ■所属 学術研究院 環境生命科学学域 准教授



田中智博
TANAKA Tomohiro
■所属
学術研究院
医歯薬学域
准教授



IN Donghui

■ 所属

学術研究院

自然科学学域

准教授

研究分野 創薬化学/ケミカルバイオロジー

自然界には存在しない分子を自ら設計、合成して、病気を治療するための研究をしています。最近では新たながん治療としてホウ素中性子捕捉療法に注目しています。

# 研究分野 知能情報学/サービス情報学

人工知能とコンピューティングパラダイムの接 点について研究しています。インターネットを核 としたコラボレーション基盤の先端技術の創出 と社会実装が目標です。

※所属等は着任時点のものです。

# 大学の動き(2022年11月~2023年2月)

様々な確率モデルの研究をしています。特に、

無限個の粒子が相互作用しながらランダムに

2022 **11**月

3日 ● 資源植物科学研究所の馬教授が令和4年秋の 紫綬褒章を受章

23日 ● 学術研究院環境生命科学学域の松村健太郎研究助教が 2022年度日本動物行動学会賞を受賞

12月

3日 ● 「おかやまSDGsアワード2022」において 学生発案講義チームが「特に優良な取組」を受賞! 15日 ● 岡山後楽園ロータリークラブから外国人留学生に

防災備蓄品の寄贈 17日 ● 岡山大学統合報告フォーラム

次世代と共に拓く「ありたい未来」を開催

23日 ● 岡山大学DS部と岡山県ものづくり女性中央会との 交流懇談会を開催

023 **1** \_

19日 ●「2022年キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」 で大学院自然科学研究科の3グループが 優秀賞、特別賞、奨励賞を受賞!

26日 ● 岡山大学共育共創コモンズ完成披露式典を開催

31日 ■ 国連貿易開発会議(UNCTAD)テクノロジー・ロジスティクス局長が来学

2月

2日 ● 岡山大学SDGs推進表彰(President Award)表彰式 &取り組み発表会を開催

22日 ● ブルキナファソ出身のアブゼ・ジグマ王女に 名誉博士称号を授与 press release

# 木を搾る技術を開発し 木質バイオマス燃料の 製造を効率化

岡山大学学術研究院医歯薬学域病理学(免疫病理)の大原利章 助教、松川昭博教授、異分野融合先端研究コアの仁科勇太研究教 授、高砂熱学工業株式会社の湯浅憲課長、木村健太郎主席研究 員、カスケード資源研究所の古藤田香代子所長らの研究グループ は、ローラー式圧搾機を用いて木材をストローのように圧搾する 事で、効率的に脱水し、水溶性リグニンを得る技術を開発しました。木材はこれまでもバイオマス発電の原料として利用されてきましたが、発電効率を上げるためにコストを掛けずに含水率を下げる事が課題でした。本技術は圧搾のみで、含水率を35%以下に下げる事ができ、新たなバイオマス発電の原料の製造技術として用いる事が可能です。

同時に採取される水溶性リグニンは抗ウイルス性等の機能性があるだけでなく、ナノ炭素など新素材の原料となる可能性が期待されます。本成果は、2022年10月22日に廃棄物資源循環学会の英文誌である「Material Cycles and Waste Management」にオンライン掲載されました。









圧搾後



# 岡山大学病院の塚原紘平助教 (救命救急科)が令和4年度 「消防防災科学技術賞 |を受賞!

# AWARD

岡山大学病院救命救急科の塚原紘平助教が開発した「ポータブルスプラッシュシールド」が、総務省消防庁の令和4年度「消防防災科学技術賞《一般の部/消防防災機器等の開発・改良部門》」の優秀賞に選ばれ、11月16日に三鷹市公会堂(東京都)で表彰式が行われました。コロナ禍で救命救急の最前線にいる救急隊員を、ウイルスを含む飛沫やエアロゾルから守るための、軽量で持ち運びしやすいシールドを株式会社ハイビックスと共同開発し、製品化したものです。

塚原助教は「病院前救護の現場から着想しました。消防機関による実証評価では現場の救急隊員から『シールドがあると安心感がある』などの声をいただきました。製品化できて良かったと喜びもひとしおです。更に現場に貢献出来るよう研究開発に取り組んでまいります」と話しています。

# PICK UP!



# ウエイトトレーニング部 地元岡山開催の 全日本パワーリフティング選手権で 個人優勝・団体準優勝!!

12月25日、ジップアリーナ岡山にて、文部科学大臣杯争奪第49回全日本パワーリフティング選手権大会が開催され、各地方予選から勝ち上がってきた17大学93人による熱い戦いが繰り広げられました!本学のウエイトトレーニング部からは17人の選手が出場。個人部門で女子52kg級の藤井紗希さん(法学部4年)、男子53kg級の小倉正太さん(工学部4年)が優勝、また団体部門では、強豪校との激闘の末、見事準優勝に輝きました。

# O K A Y A M A U NIVERSITY NAVIGATION



# 大学祭(津島祭)を3年ぶりに対面開催!

## FESTIVAL

11月5、6日の2日間、津島キャンパスで大学祭(津島祭)を開催しました。「おかえりなさい岡大祭~心をギュッとくっつけん祭~」をテーマに、当日は会場中が学生によるバラエティ豊かな模擬店で彩られ、岡山県内の飲食店によるキッチンカーも多数出展されました。恒例の文化系・体育系クラブの各種企画や音楽ライブに加え、会場内4箇所に設けられた特設ステージでは、各種コンテストや趣向を凝らしたパフォーマンスが披露されました。また、6日には俳優・佐野勇斗さんのトークショーやお笑い芸人・安田大サーカスHIRO&クロちゃんのお笑いライブも開催され、連日大盛況でした。

今回は、コロナ感染症対策の一環として、本学DS部が開発した「入退場人数カウントと検温が同時にできる装置」を活用し、会場内に同時に入場いただける人数を5千人に限定。2日間で1万4千人を超える多くの方にご来場いただきました。

# 世界初!

英国バース大学創設「気候行動バッジ」を グローバル・エンゲージメント・オフィスの 教職員が受賞

## AWARD

横井篤文上席副学長・ユネスコチェアホルダー、グローバル・エンゲージメント・オフィスの原田美樹チーフ・オフィサー、津波優グローバル・アドミニストレーターが1月6日、英国バース大学が創設した「気候行動バッジ」の最初の受賞者となりました。同バッジは気候変動の緊急事態に立ち向かう価値ある貢献や先駆的な活動に取り組む教職員や学生ならびに地域、国内、世界で活躍するバース大学の戦略パートナーに贈られるものです。

横井上席副学長は「本受賞は私たち個人に対してだけではなく、サステナビリティとウェルビーイングを地域と共に全学で推進してきた本学にとって栄誉なことだと思っています。また、社会的インパクト評価の先進国でもある英国内トップレベルのバース大学から、本学グローバル・エンゲージメント・オフィスの地球社会へ貢献する取り組みに対して評価いただいたことは大



変光栄です。今後の 励みとして、さらに 地球全体のウェル ビーイングの共創に 尽力していきたい」 と述べました。



1枚の写真から紐解く、岡大の歴史。 誰かにそっと教えたくなる…そんなエピソードとともに紹介します。 岡大 OU Pictorial History モノクローム#05



# 工学部開学並びに第1回入学宣誓式 1960(昭和35)年

現在では10学部1プログラムを抱える岡山大学も、開学時(1949(昭和24)年)は法文学部、教育学部、理学部、医学部、農学部の 5学部でスタートを切りました。当時、農業県から工業県への転換を図っていた岡山県では、工業系学部の設置の要望が高まっていました。県民のみなさまの熱意と2億5千万円にのぼる募金のおかげで、ついに1960(昭和35)年、工学部の新設が決定しました。

時代は進んで2023(令和5)年。地域のみなさまからの多大なるご寄付もあり、共育共創コモンズは完成しました。 ここから生まれる新たな価値を地域に還元し、これからも地域のみなさまと「ありたい未来を共に育み共に創る」 岡山大学であり続けたいと思います。

(参考:岡山大学二十年史)



# 岡山大学広報いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発行 : 岡山大学 総務・企画部 広報課

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294 E-mail www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

https://www.okayama-u.ac.jp

岡山大学

検索







